

元気アップこものスポーツクラブ 危機管理マニュアル

近年、スポーツ活動においても不審者の侵入、事故や災害、熱中症などの健康リスク、個人情報の漏洩といったリスクが増加しています。これらのリスクに対応するために、クラブ活動においても危機管理を徹底することが不可欠です。このマニュアルは、クラブのすべての活動において、迅速かつ的確に対応するための指針を提供します。事故や事件が発生した際に、適切な対応をとることで、二次的な被害を防ぎ、安全・安心な活動が確保されます。

I. 危機の予知・予測と未然防止

1. 過去の事例の分析

過去に発生した事故や事件を徹底的に分析し、その原因や経過を明確にすることが重要です。これにより、次回同様の事態が発生する前に予兆を察知し、早期に対処することが可能になります。例えば、過去の熱中症事例では、体調の急変が前兆として見られることが多かったため、その兆候を見逃さずに対応することが求められます。

2. 受講生および保護者からの情報収集

受講生や保護者からのフィードバックを定期的に収集し、問題の早期発見を目指します。例えば、受講生の体調や過去に体調不良を経験したことがある場合、その情報を事前に把握し、対応策を講じることができます。また、地域の安全情報や気象情報を活用して、外的なリスクに対する備えも強化します。

3. 日常的な予防策

活動前に危険因子を共有し、全員で安全確認を行います。特に、運動前後のウォームアップやクールダウン、適度な休憩と水分補給を徹底し、熱中症やケガのリスクを減少させます。受講生には「無理をしない」「休みたい時は遠慮なく言う」などの声掛けをしやすい環境作りを心掛けます。

4. 設備と環境の安全管理

使用する器具や設備が適切に設置されているか、定期的な点検を行います。特に、怪我や事故の原因となりやすい施設や器具の取り扱いについては、事前に注意喚起を行い、万が一の故障や不具合には即対応できるような体制を整備します。

II. 危機発生時の対応

1. 人命尊重と冷静な判断

危機発生時には、最も重要なことは「人命を最優先に守る」ことです。すべてのスタッフは冷静に状況を把握し、受講生や講師の生命を守るために必要な手続きを迅速に進め

ます。応急手当を適切に行い、専門機関（救急、警察、消防）への連絡を行う際には、必要な情報（事故の種類、場所、状況など）を正確に伝えることが求められます。

2. 情報収集と状況把握

事故発生直後には、まず現場の状況を迅速に把握し、必要な応急措置を講じます。受講生や目撃者からの情報を収集し、事故の規模や緊急度を評価して、即時の対応を決定します。

3. 適切な報告体制

危機発生後は、速やかに事務局への報告を行い、状況を共有します。その後、関係機関（警察、病院、保護者など）への連絡を行い、必要に応じてサポートを求めます。すべての対応が適切に記録され、後々の対応に役立つようにします。

4. 受講生と保護者への配慮

事故が発生した場合、受講生や保護者に対する情報提供を適切に行い、安心感を与えるよう努めます。また、受講生が事故を目撃して動搖している場合には、心のケアやサポートを行うことも重要です。

III. 事故発生時の具体的対応事例

1. 陸上競技での事故

例えば、陸上競技中に急に倒れた受講生に対しては、まず意識や呼吸の確認を行い、心肺蘇生法（AED 使用）を実施します。周囲の受講生には冷静に指示を出し、動搖を抑えます。その後、速やかに救急車を手配し、保護者にも連絡を行います。

2. AED の使用

AED は心停止が疑われる受講生に対して、電気ショックを与えて蘇生を試みる機器です。これを使用する際には、音声メッセージに従って操作を行い、救命処置を行います。AED の早期使用が救命率を大幅に向上させるため、訓練を受けたスタッフ全員が迅速に使用できるようにしておきます。

IV. 施設内の事故防止

1. プールでの事故防止

プール活動では、受講生の安全を最優先に、個々の能力や体調に応じた指導を行います。プールサイドには適切な監視体制を整え、事故が起こらないように見守ります。また、緊急時の対応策（救命具、電話連絡体制、保温用具など）を確認し、すぐに対応できる体制を構築します。

2. 飛び込みや水深に関する安全管理

水泳指導においては、飛び込みによる事故を防ぐため、水深や入水姿勢についての指導を徹底します。また、スタートの際に水面下の低い位置から徐々に高くするなど、段階的な指導を行い、安全に水に入る方法を身に付けさせます。

V. 救急対応

1. 骨折の手当

骨折が疑われる場合は、まず全身の状態を観察し、必要に応じて骨折部を固定します。移動が必要な場合には、傷病者の痛みを和らげるために適切な方法で固定し、必要最小限の移動を行います。適切な応急手当を行い、速やかに救急車を手配します。

2. その他の怪我や病気への対応

怪我や病気による突然の体調不良に対しても、迅速に対応することが求められます。例えば、突然の意識喪失や過呼吸などが発生した場合には、冷静に状況を判断し、応急手当や AED を使うなどの措置を講じます。

VI. 不審者の侵入への対応

1. 不審者発見時の初動対応

施設内に不審者が侵入した場合、まずはスタッフが冷静に対応し、適切な対応策（退出の指示、警察への通報）を講じます。受講生や他のスタッフの安全を確保するために、複数で対応し、必要に応じて警察など関係機関に連絡を行います。

2. 不審者対応訓練

定期的に不審者対応の訓練を実施し、スタッフが迅速かつ的確に行動できるようにします。これにより、万が一の事態にも冷静に対応することができます。

VII. 最終的なまとめとスタッフの役割

1. 全スタッフの協力と連携

事故や危機が発生した場合、全スタッフが協力して迅速に対応することが求められます。責任を持って行動するために、各スタッフには自分の役割を明確にし、常に連携して活動を行うことが重要です。

2. 繼続的な改善と評価

危機対応後は、対応の評価と改善策を検討し、次回に活かすためのフィードバックを行います。定期的な評価と改善を行うことで、危機管理体制が強化され、より安全な運営が可能となります。